会員投稿　# 『仙台点描』（1）

仙台市　豊福 恒三

仙台に移り住んで8年，すっかりご無沙汰していますが，まだ，「どうにか健在」の証に，仙台のことを少し書かせて頂きます。お気軽に，ご一読のほど。

（1）仙台と政宗

慶長8年，伊達政宗が仙台開府，仙台藩62万石が誕生，明治4年の「廃藩置県」によって，仙台藩は仙台区に，さらに明治22年の「市町村制」の施行によって，仙台区は仙台市に，といったような歴史的経緯を経て，今日の仙台市が誕生した，という次第です。このようにして誕生した仙台市も100年の時代を推移し，発展の道を辿って，平成元年広島市に続いて，全国11番目の「政令指定都市」に昇格移行，今年5月，念願の人口百万人達成を果して「百万都市仙台」の新たな扉を開いた，という仙台市にとっては，まことに記念すべき年になりました。

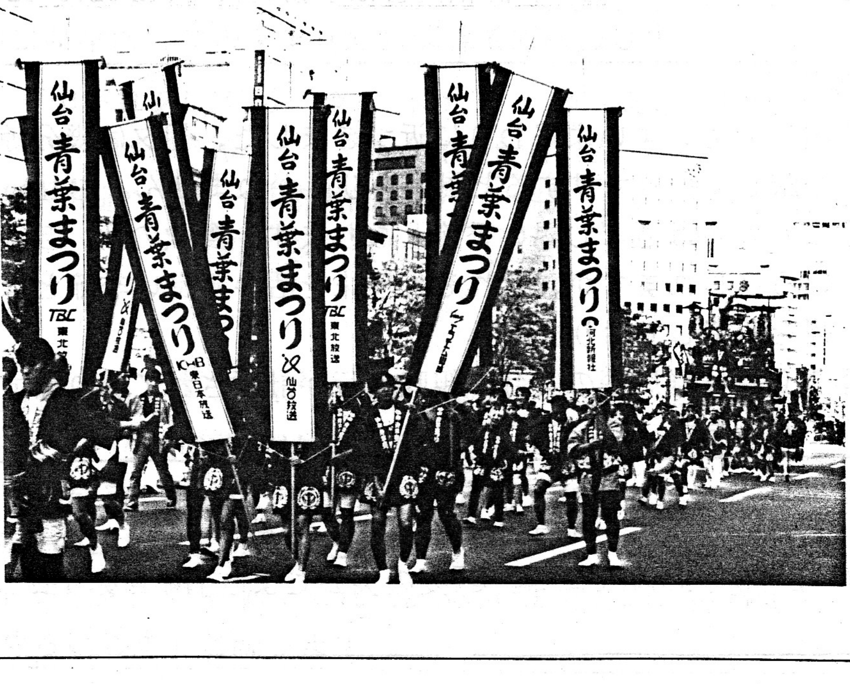
政宗が生みの親の仙台，このまちは，今も政宗を何かと崇め奉っています。
明治7年，政宗を祭神として「青葉神社」を建立，政宗が権中納言に任ぜられた日にちなんだ1月9日を例祭日として，盛大にお祭りをしてきています。

昭和に入って60年の年に，政宗没後350年を記念して5月25日（政宗命日）「青葉まつり」を挙行，これがその後年々引継がれて，今では，市をあげての一大行事にまで発展しています。青葉神社の「神霊泰安みこし」を先頭に，8基の山鉾，武者行列，音楽パレードなどが市内目ぬき通りを練り歩いて，なかなかの壮観です。8月の「仙台七夕まつり」とともに，仙台の名物行事になっています。

仙台の観光名所は数々ありますが，例えば「瑞鳳殿」は，政宗の霊廟，国宝「大崎八幡神社」は，伊達家代々の守護神社，「東照宮」は，二代藩主の創建になるもの，名園をもつ「輪王寺」は，政宗の造営になるもの等々名の広く知られたものも含めて，政宗とその一族にゆかりをもつ名所旧跡は，市内あちこちに数多く残されています。

仙台城（青葉城）跡の山上広場の政宗騎馬像が，かつての城下町，今は高層ビルの林立する市街地をはるか見渡すかのように戦国武将の雄姿を見せているのは，仙台と政宗の結びつきを考え，象徴的です。

（つづく，次号は「仙台と仙台文学館」です）



会員投稿　『仙台点描』（2）

仙台市　豊福 恒三

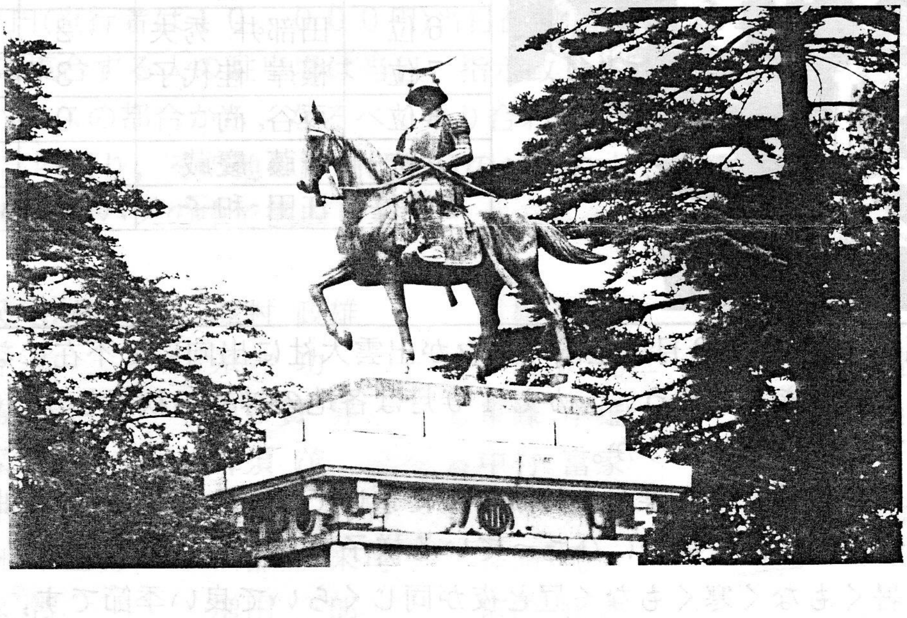
（2）仙台と仙台文学館

明治４０年，東京，京都に次いで，全国で３番目の帝国大学が仙台に設置されました。

これより前，明治２７年，第二高等学校，さらにその前から，私立の東北学院，宮城女学院等が開校していて，若い人達に多くの学びの場を与えていました。これらの諸学校は年々充実発展の道を進んで，学生の数も増加，やがてこのまちが「学都仙台」の顔をもつに至った，といわれています。

このような学術的な好環境が，著名な文士文学者の来仙を呼び，作家「井上ひさし」をして，「仙台は，多くの文学者を受け入れ，育て，そして，作品を生み出す力を与えてきたまち」といわせています。

大正１２年，東北帝国大学に赴任，教鞭をとった哲学者「阿部二郎」，第二高等学校に学び，後に教師を務めた作家・文芸評論家「高山樗牛」をはじめとして，東北学院で教鞭をとったこともある詩人・作家の「島崎藤村」仙台に生まれ，第二高等学校の教授を勤めた詩人「土井晩翠」宮城県に生れ，仙台で学んだ歌人「落合直文」同じく「原阿佐緒」等まさに多士済済です。現代の作家「井上ひさし」は，中学から高校にかけて仙台で学び，同じく数々の文学賞をとった「佐伯一麦」は，仙台で生れ，今も仙台に暮して，作家活動を続けています。このように，文学とも深いかかわりをもつ仙台市は，「文学的記憶を掘り起して，よみがえらせる場」を設立の趣旨として，今年３月，井上ひさし を館長に迎え，「仙台文学館」をオープンさせました。詳細は省きますが「文学に限った博物館」と，とらえていいのではないでしょうか。今仙台で一番新しい文化施設です。明治大正期の文学に関心をおもちの方には，何か参考になるものが見出せるかも，と申しあげておきます。

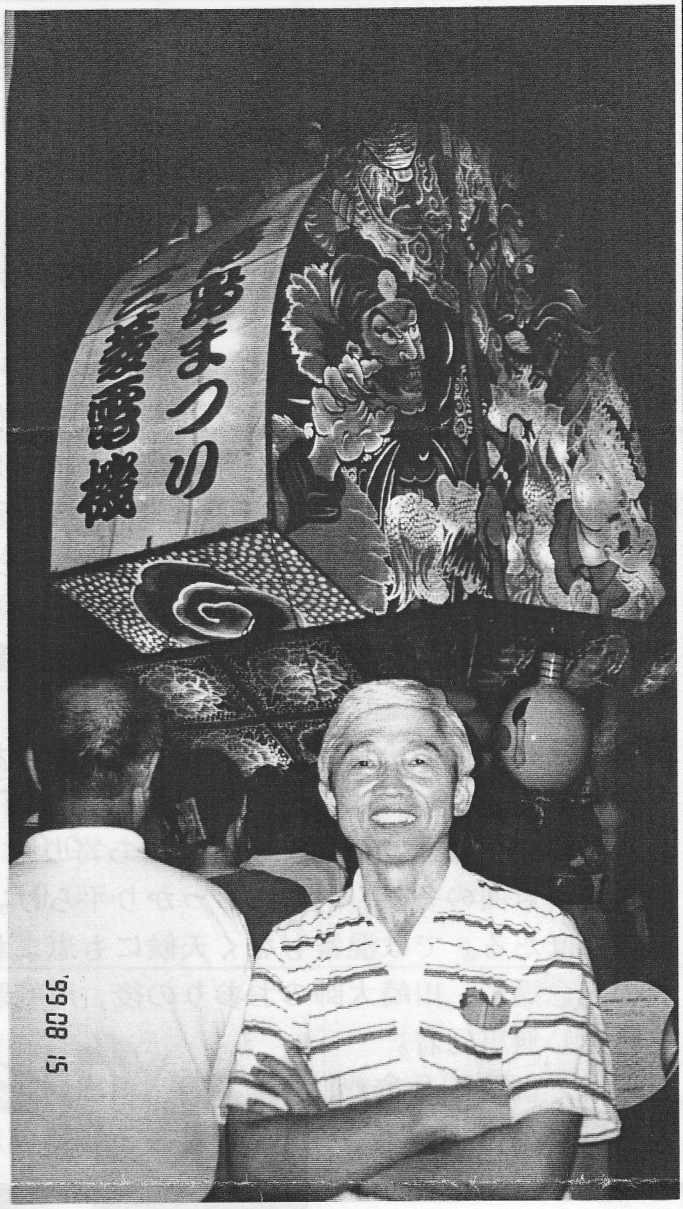


仙台には，この仙台文学館のほかに，市立博物館，県立美術館，県・市立図書館，仙台市科学館，こども宇宙館，音楽ホール等々が充実した内容で，市民，観光客の興味をそそっています。私もヒマをみて，ひと通りのぞいてみました。とくに図書館は，自分の書庫のつもりで貸出し図書を大いに利用し，調法しています。

（つづく、次号は「仙台と定禅寺通り」です）

新会員紹介　　一見正彦さん（平成１１年６月１５日定年）

〒330-0017　大宮市風渡野 78-1，220　電話 048-687－4910



平成２年から４年間，総務課に在席しました一見です。

この度，菱の実会に入会させていただくことになりました。よろしくお願いします。

今日迄，会社生活を３６年。中電を振出しに，５番目の赴任場所が馬電でした。現在は，菱電印刷(千葉県市川市)に勤務しています。振り返って私は，馬電時代が“人生の転機”であった気がします。身の回りから言えば，この時から以降９年間に及ぶ単身赴任生活がはじまり，「少しの自由」と「多くの不自由」を知る契機となりました。
一方，仕事面では総務を担当したことから，社内外のいろいろな人と，お付き合いができ，皆様から理解と支援をいただいて，やり遂げるという体験を積むことが出来ました。
さて，朝日新聞の土曜夕刊に「定年わっはっは」なる一般投書コラムがあります。種々の先輩が定年後を，いわゆる現役時代とは異なった視点から物事に接し，生きがいを見出し，いきいきと生活されている様子が伝って来ます。毎土曜日の記事を楽しみにしている今日この頃です。

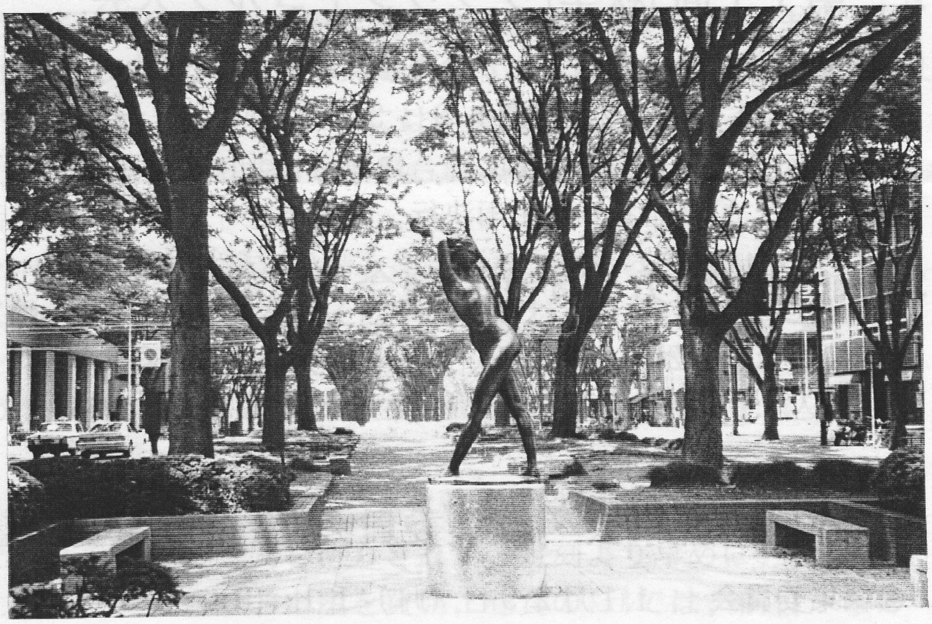
会員投稿　『仙台点描』（３）（４）

仙台市　豊福 恒三

（３）仙台と定禅寺通り

仙台藩の城下町であった頃から，明治大正期にかけて，民家の庭木や，神社・寺院の境内の樹木が，豊かな緑を保って，仙台は「杜の都」の面目を永く保ってきました。
しかし，この豊かな杜も，昭和２０年７月１０日の仙台大空襲によって，多くの建物とともに焼失の憂目にあい，とくに中心市街地からは，大半の緑が失われました。米軍「B29 爆撃機」124 機による 20 数回にわたる空爆によって，焼失戸数１万２千戸，市街中心地ほど大きな被害を受け，殆ど壊滅状態だった，と戦災の歴史は語っています。
戦争が終って，昭和 20 年，戦後復興計画が打ち出され，街路の建設や，ビルの建設などに重点の置かれた都市再建の動きが始まり，新しい仙台の町並づくりによって，拡張整備を行ないながら，幹線道路も，次々とつくり出されていくわけですが，それととも

に，市街地の緑の回復にも着目，その回復の手段を街路樹の育成に求め，建設された街路に植樹を始めました。そして，重点をまず幹線道路の最もメインとされる「青葉通り」(仙台駅前から西方仙台城跡に向う)と「定禅寺通り」(県庁・市役所の南を東西に走る)に置いて，昭和26年から33年にかけて「ケヤキ」を数多く植樹，永年育成に努めてきました。育成に努めたそれらの「ケヤキ」も半世紀近くを経た今は，見上げるような大木に育ち，枝葉を四方に大きく広げ，豊かな緑をつけて，杜の都仙台の欠かせない観光名所にもなっています。とくに「定禅寺通り」のそれは，延長 700m にわたって見事なまでの緑のトンネルを形成して，杜の都の象徴そのもの，私の大好きな散歩道です。



建物の建設も毎年進んで，高層・超高層ビルの林立する中心市街地を，東西に，南北に走る広々とした幾筋もの主要幹線道路は，どの通りも，みな豊かな街路樹が，さわやかさを添え，都会と自然が程よく調和して，好ましい雰囲気をかもし出している，仙台のまちを，私はそのように見ています。(ケヤキは，落葉樹です。念のため)

(4) 仙台と繁華街

総延長 1600m，全天蓋アーケードの商店街は，仙台駅前を起点として，東北一の繁華街を形成しています。5つのデパート，14の映画館が，駅前と，この繁華街に集中し，平日でも6万，休日ともなると，仙台市民だけでなく，県内外の来仙者も加わって，わっとふくれあがり，その数8万人以上にも及ぶといわれています。東北・秋田両新幹線の開通が，仙台を訪れやすくした，そんな関係もあるのでしょうか。仙台のまちには，地下鉄(市営)が1本，仙台駅をまん中に，南の端と北の端とを結んで走っています。私の家は，この地下鉄の駅(黒松駅)まで歩いて5分，地下鉄に乗れば，10分そこそこで仙台駅着。こういった便利さも手伝ってヒマをみては，まちに出かけるようにしています。時には用事の場合もありますが，大半は特別の目的ももたず，ただ歩く，それだけでまちに出かけます。気がむけば，デパートをちょっとのぞいたり，本屋などに立寄ったりすることもありますが，目的は歩くこと，3時間程のまち歩きは結構な運動量，私の唯一の健康方です。孫が1才の誕生日を迎えたとき，仙台に移り住みました，その孫も小学4年生になり，手のかかることも少なくなりましたが，日中両親不在の家庭には，まだまだ私たちは必要な存在で，解放される日はいつかの見当さえつきません。尾島には，帰る日もあろうか，と考えて，あばら家がそのまま残してありますが，さて，どういうことになりますやら………。皆さまのますますのご健勝をお祈りします。(おわり)